

モンシロドクガ

春にヤナギやカンバなど広葉樹の葉を食べる毛虫（幼虫）。最大長約30mm。体は黒く、背中と体の横が幅広くオレンジ色。黒い部分に白点が並ぶ。

ヤナギに多発することがあるといわれている。触ると皮膚炎を起こす。



1. 終齢幼虫，体長21mm. 1994/6/20.



2. 雄成虫，体長13mm. 1の幼虫を飼育.

美唄市，シラカンバ.

【学名】 *Euproctis similis*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , ドクガ科 (Lymantridae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州；朝鮮半島，千島，ユーラシア.

【特徴】

良く似た毛虫にキドクガとリンゴケンモンの幼虫がある。キドクガの幼虫は頭の両側に黒く長い毛束がある。リンゴケンモンの幼虫は夏に発生し、毛先が白く、ウエーブがかかる。

【生態】

宿主：ヤナギ，シラカンバ，ブナ科，バラ科，ニセアカシアなど。

年2～3回発生，若齢幼虫で越冬といわれている。

北海道では老齢幼虫が6月に出現し，飼育下では7月に成虫になったこと，7月末に採れた若齢幼虫が中齢で越冬に入ったことから，年1化のように思われる。

雌成虫は葉裏に卵塊を産み，幼虫は若齢時は集団性，老齢で分散，葉間で繭を作るという。越冬の際は集団で葉上に糸を張り巡らし，越冬巣を作っていた。

【被害と防除】

本州などではヤナギで多発するとされている。北海道では多発生は記録されていない。

体毛には毒があり触ると皮膚炎を起こすので，衛生害虫として注意を要する。もっとも，市街地で発生した例は知られていない。

【文献】

1958. 江崎悌三ほか. 原色日本蛾類図鑑（下）: I-V, 1-303, pls 65-136. 保育社, 大阪.
1965. 一色周知, 監修. 原色日本蛾類幼虫図鑑（上）: 1-238, pls 1-60. 保育社, 大阪.
1977. 小林富士雄. 緑化樹木の病害虫（下）害虫とその防除. 290pp. 日本林業技術協会, 東京.
1977. 奥野孝夫, 田中寛, 木村裕. 原色樹木病害虫図鑑: I-VIII, 1-365, pls 1-64. 保育社, 大阪.
1982. 井上寛ほか. 日本産蛾類大図鑑. Vol. 1: 1-968; Vol. 2: 1-556, pls 1-392. 講談社, 東京.
1987. 杉敏郎, 編集. 日本産蛾類生態図鑑: 1-453, pls 1-120. 講談社, 東京.

北海道立林業試験場・緑化樹センター

モンシロドクガ dokuga/monsiro/
kaisetv.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1991/5/1-2001/4/12.

1yochu.jpg, 1seichu.jpg

「写真1～2」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1994.